

令和7年度

# 租税教育実践発表会資料

石巻市立住吉小学校

教諭 及川 ゆかり

## 1 はじめに

租税教育の目的は、「租税に関する意義、役割、機能、仕組み等の租税制度を知るとともに、申告納税制度の理念や納税者の権利及び義務を理解し、社会の構成員としての正しい判断力と健全な納税者意識を持つ国民を育成すること」である。租税に関する知識の学習はもちろんのこと、単に知識を習得させることにとどまるのではなく、その知識を基に考え実践する学習を行い、税の制度や政治、社会の仕組みに興味を抱かせ、税を通して社会を考えることによる民主主義の理解や主権者としての社会参画意識を育むことが大切である。

本校では、6年生の社会科の単元「わたしたちの生活と政治」における学習や、税理士による「租税教室」などを通して、児童に身近な税金について考えさせ、理解を深める機会を設定している。

## 2 本校の概要<明治34年5月17日開校：児童数104名>

住吉小学校は、石巻市の中心部に位置し、中央繁華街を含む平坦地にある。古来、太平洋や北上川による海上交通、陸上交通の要点として発達した地域であり、学校周辺には史蹟等が多い。平成23年の東日本大震災の被災により地域に大きな被害が出たが、北上川の堤防が整備されるなど、復旧してきている。

本校では、「自ら考え、共に歩み、未来を拓く子どもの育成」を教育目標として掲げ、「凡事徹底」を合言葉に、目指す児童像を「いのちを大切に作る子ども」「進んで勉強する子ども」「思いやりの心をもつ子ども」「がんばりぬく子ども」「きまりを守る子ども」としている。保護者や地域の教育に対する関心は高く、連携しながら、児童の健全な育成に努めている。

## 3 児童の実態

本校第6学年の児童は、男子7名、女子10名、計17名で構成されている。単学級ということもあり、互いを理解し合い、支え合いながら学習や活動に取り組む姿が見られる。

税に関しては、メディアの情報や日常生活の経験から、「消費税10%」「増税・減税」「未納・滞納」「税務署」などの言葉を知ってはいるものの、税金が何のためにあるのか、どのように使われているのかなどの具体的な内容についてはほとんど知らなかった。更に、「税金を払いたくない」「税金が高い」などのマイナスイメージを持っている児童も多かった。

## 4 指導に当たって

以上のことから、税に関する学習を通して、税に対する基礎的な知識を学ばせ、児童の正しい判断力と健全な納税意識を高めていくために、以下の3つの手立てを講じていく。

### (1) 税に関する基礎的・基本的な知識の定着

- ・憲法で定められている権利と義務を学び、税金の意義について理解させる。
- ・石巻や学校周辺の復旧・復興に向けて使われた税金について理解させる。

### (2) 学びを深めるためのゲスト・ティーチャーの活用

- ・税理士による「租税教室」を実施し、税の種類や使い道、税金の必要性などについての理解を深める。

### (3) 他の教科や活動と関連付けた指導の継続

- ・「税に関する絵はがきコンクール」への作品に取り組みせ、応募する。

・他の教科や領域，児童の生活と関連付けた日常的な指導を継続する。

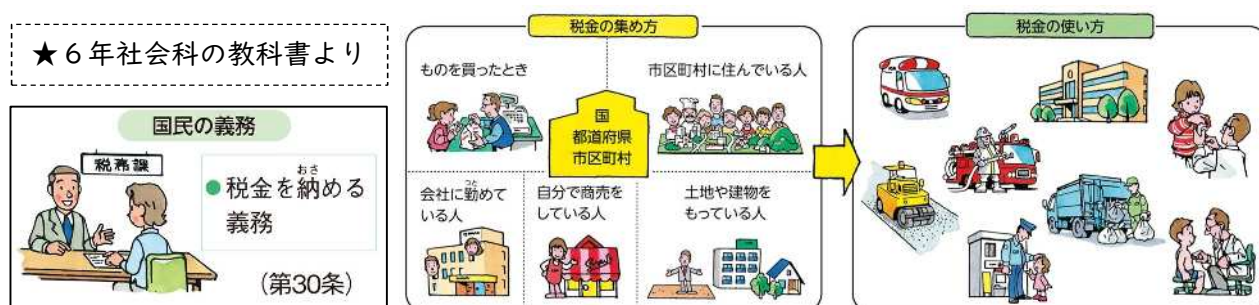
## 5 指導計画（4時間扱い）

時間	学習内容【手立てとの関連】	評価規準
1	授業 ○社会科「くらしの中の基本的人権の尊重」 ・国民の権利の保障と尊重 ・国民の義務（税金を納める義務） 【手立て①】	日本国憲法は，基本的人権の尊重の考えに基づいて国民の権利を保障するとともに，国民が果たさなければならない義務も定めていることを理解することができる。
2	授業 ○社会科「選挙のしくみと税金の働き」 ・税金の集め方や使い方と選挙との関連 ・安全な生活を守る仕事と税金との関連 【手立て①】	税金の集め方や使い方と，選挙で代表者を選ぶこととのつながりについて考えることができる。
3	租税教室 ○租税教室（ゲスト・ティーチャー） ・わたしたちの安心・安全な生活を守るための税金の働き ・税金の種類や必要性 【手立て②】	税金と自分たちの安心・安全な暮らしが密接に関わっていることを理解することができる。
4	授業 ○社会科「震災復興の願いを実現する政治」 ・震災直後の市や県，国の取組 ・復旧・復興に向けた国の支援 【手立て①】	石巻市や学校周辺の復旧・復興に向けて使われた取組と税金について理解することができる。
事後学習	○「税に関する絵はがきコンクール」への作品応募 ○防災タイム「石巻の人を救助するために」 ○日常生活の中での指導の継続 【手立て③】	

## 6 実践

### （1）税に関する基礎的・基本的な知識の定着

社会科の単元「わたしたちの生活と政治」で，日本国憲法で定められている権利と義務が，自分たちの生活とどのように関わっているのかを取り上げた。基本的人権の尊重が保障されているとともに，それを支え，実現するために国民が納めた税金が使われていることを理解することができた。特に，学校，教科書など教育に関わること，消防署や警察などの安心・安全な暮らしを守るための働き，道路や橋，公園などの公共施設の整備など，多くのものが税金と深く関わっていることを知り，驚く児童が多かった。



いよいよ明日は国会議員選挙の投票日です。候補者がそれぞれ、最後の演説をしています。

**A候補**  
今の日本は、高齢者の人口が増えています。安心して老後をむかえられるように、65才以上の国民の医療費を無料にすることが必要です。

**B候補**  
新型の感染症の拡大で、収入が減り、教育の費用に困っている家庭が増えています。高校と大学の授業料を無料にすべきです。

**C候補**  
保育園などに子どもを預けられない家庭がたくさんあります。安心して子どもを預けて仕事ができるように、保育園の数を増やすことが必要です。

## (2) 学びを深めるためのゲスト・ティーチャーの活用

本校では、毎年、6年生の社会科の授業と関連付け、「租税教室」を実施している。今年度も、税理士をゲスト・ティーチャーに迎え、税に関する講話をしていただいた。



動画資料：「マリンとヤマト 不思議な日曜日」(国税庁)より



動画視聴を通して、主人公の気持ちに共感しながら、「もし、税金がなかったら」という生活を具体的に捉え、税金の役割について考えることができた。

また、税理士さんから消費税以外の税金の種類や税率の違い、世界の国々の税金の違いと保障などについても教えていただいたことで、児童の学びが更に深まり、より自分事として税金の意義を

捉える変容が見られた。

### (3) 他の教科や活動と関連付けた指導の継続

社会科の学習や租税教室での学びをアウトプットする機会として、「税に関する絵はがきコンクール」への作品に取り組みさせた。児童一人一人が理解したことや税金の大切さについて考えたことを表現することができた。



この他にも、月に一度実施している防災タイムにおいて、震災時に多くの人々の支えや石巻市、宮城県、国の取組があったことや、消防や警察、自衛隊、医療関係機関などの働きがあったことと、税金との関わりについて考えさせる機会を設けた。復旧・復興に向けた取組や、石巻市の未来に向けた町づくりのために支援金や特別予算が使われたことにも触れ、税金が自分たちの生活を支える上で大切なものであることに気付かせることができた。

## 7 成果と課題

○社会科の授業だけにとどまらず、ゲスト・ティーチャーの活用、他教科や領域での関連を図った指導など多面的な手立てを講じたことで、児童が税に関して様々な観点から考え、理解することにつながった。

<実践前の児童の意識>

\*なぜ、子どもも消費税を払わなければならないのか。大人だけでいい。  
\*税金なんて必要ないと思う。  
\*税金のしくみについては、難しく、よく分からない。



<実践後の児童の意識>

◎税金があるからこそ、自分たちの安心・安全な生活があるのということが分かった。  
◎アニメの中で税金がなくなった生活を見たけど、実際に起きたら嫌だなと思った。  
◎税金は大切なものだと分かった。子どもも消費税を払っているけど、自分たちのためになるんだと思った。

●税の仕組みについては、大人でも分からないことが多いというのが正直なところである。税金の仕組みや役割を正しく理解し、その知識を基に考え、実践する意識を今後も高めていきたい。